

2024年5月28日

2023年度

事業報告書

自2023年4月 1日

至2024年3月31日

<本編>	
I. 法人の概要	1
II. 事業の概要	5

学校法人近畿医療学園
大阪市北区西天満5丁目3番10号

I. 法人の概要

1. 建学の精神

確かな技術と共に社会奉仕の精神を養い、人格共々優秀な人材の育成を目指します。

2. 学校法人の沿革

平成20年（2008）3月	大阪府より学校法人近畿医療学園の認可を受ける
	大阪府より近畿医療専門学校設置の認可を受ける
	大阪府より柔道整復師養成施設の承認を受ける
平成20年（2008）4月	柔道整復学科昼間部、夜間部開設
平成23年（2011）3月	柔道整復学科第1期生卒業
平成23年（2011）3月	大阪府よりはり師・きゅう師養成施設の承認を受ける
平成23年（2011）4月	鍼灸学科昼間部Ⅰ、昼間部Ⅱ開設
平成26年（2014）3月	鍼灸学科第1期生卒業
平成27年（2015）4月	鍼灸学科夜間部開設
平成30年（2018）4月	柔整学科・鍼灸学科夜間部閉鎖
令和3年（2021）4月	柔整学科昼間部スポーツ科学コース開設

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人近畿医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市北区西天満 5丁目10番3号		
設置する学校	学校名	課程名	学科名	学部	修業年限	入学定員	1学年の 学級数	備考
	近畿 医療 専門 学校	医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	60	2	午前
		医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	30	1	午後
		医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	30	1	スポーツ科学 コース
		医療専門課程	鍼灸学科	昼間部	3	30	1	午前
		医療専門課程	鍼灸学科	昼間部	3	30	1	午後

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
近畿医療専門学校 （大阪市北区西天満5丁目3番10号）	698.14 m ²	4172.77 m ²	
		87.81 m ² （臨床実習施設）	

5. 役員の概要

(2023年4月1日現在)

【理事・監事】

役員	氏名	役員就任日	寄付行為上の専任区分	備考
理事	小林英健	平成 20 年 5 月	第 6 条第 2 号	理事長
理事	清原伸彦	令和 3 年 4 月	第 6 条第 1 号	近畿医療専門学校校長
理事	山本宗弘	平成 20 年 4 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	北川勝司	平成 20 年 4 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	小林朋子	平成 20 年 4 月	第 6 条第 3 号	学識経験者
理事	田中順	平成 31 年 1 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	池之上慎	平成 31 年 1 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	浜口大介	令和 5 年 1 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
監事	大澤泰嗣	令和 5 年 2 月	第 7 条	理事会で選出し理事長が選任
監事	伊藤勇二	令和 5 年 2 月	第 7 条	理事会で選出し理事長が選任

定員数：理事8名、監事2名

【評議員】

(2023年4月1日現在)

役員	氏名	役員就任日	寄付行為上の専任区分	備考
評議員	清原伸彦	令和 3 年 4 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	坂本博	平成 31 年 1 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	西堀健司	平成 31 年 1 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	上野雅洋	令和 5 年 2 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	藤原光	令和 5 年 2 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	宇野耕介	平成 31 年 1 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	京本永寿	平成 31 年 1 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	森下和幸	令和 4 年 4 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	小林栄美	平成 31 年 1 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	小林幸司	令和 5 年 2 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	小林英健	平成 20 年 5 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	山本宗弘	平成 20 年 4 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	北川勝司	平成 20 年 4 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	小林朋子	平成 20 年 4 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	田中順	平成 31 年 1 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	池之上慎	平成 31 年 1 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	浜口大介	令和 5 年 1 月	第 25 条第 3 号	学識経験者

定員数17名（1号：5名 2号：5名 3号：7名）

●理事会・評議委員会

評議委員会 2023/5/29 (決算)、2023/7/6、2024/3/26 (予算)

理事会 2023/5/29 (決算)、2023/7/6、2024/3/26 (予算)

6. 教職員の概要

●専門学校・診療所

(2023年5月1日現在)

区分	専任	兼任	合計
教員	21	27	48
職員	14	0	14
診療所職員	0	2	2
合計	35	29	64

●専門学校・診療所

(2022年5月1日現在)

区分	専任	兼任	合計
教員	21	26	47
職員	14	0	14
診療所職員	0	2	2
合計	35	28	63

7. その他

●主な加盟団体

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会	専門学校	法人本部	学校関係
2	公益社団法人全国柔道整復学校協会	専門学校	法人本部	
3	公益財団法人全日本柔道連盟	専門学校	法人本部	
4	全日本実業柔道連盟	専門学校	法人本部	

II. 事業の概要

1. 国家試験結果

●鍼灸学科国家試験結果

		受験者数	合格者数	不合格者数	合格率%	全国合格率%
はり師	新卒	39	38	1	97.4	85.8
	既卒	6	0	6	0.0	14.1
	総数	45	38	7	84.4	69.3
きゅう師	新卒	39	38	1	97.4	86.2
	既卒	6	0	6	0.0	13.0
	総数	45	38	7	84.4	70.2

新卒においては、39名中、1名の国家試験不合格者を出したが、例年安定した合格率を保っている（過去5年の合格率平均 97%）。毎年行っている実力試験を基にした下位者への個別面談や補講が合格率につながっていると考える。一方、既卒の合格者は0であるのでここを上げる事が今後の課題だと考える。総数の合格率においては全国平均をやや上回る結果となった。

●柔整学科認定実技試験結果

58名受験し58名合格。

●柔整学科国家試験結果

		受験者数	合格者数	不合格者数	合格率%	全国合格率%
柔道整復師	新卒	42	40	2	95.2	84.0
	既卒	78	27	51	34.6	35.9
	総数	120	67	53	55.8	66.4

新卒の合格率は95.2%で昨年比では62.5ポイント上がり、総数では55.8%となり昨年比では34ポイント上がった。新卒の合格率は全国平均より高い。既卒の合格率は低いが、昨年比では25.9ポイント上がる結果となった。3限目を用いた補講対策や成績下位者に対する国試対策寄宿等を行ったことで結果を出すことができた。また3年次のみ国家試験対策では、対応できない試験となってきたことも踏まえ、2年次及び1年次での補習の強化並びに国家試験を意識した授業を行うことで、学習意欲を上げる試みを行ってきた。次年度に向けての新たな必修範囲の対策、学習効果が評価できる授業内容などを検討して、国家試験対策の充実を図っている

2. 退学者・留年者数

●退学者数

	1年	2年	3年	合計
鍼灸学科	7	0	2	9
柔道整復学科	18	10	7	35
合計	25	10	9	44

●留年者数（うち復学者）

	1年	2年	3年	合計
鍼灸学科	1	3(2)	3	7(2)
柔道整復学科	0	1	9	10
合計	1	4(2)	12	17(2)

昨年度と同じ44名の退学者になった。学力不振による留年で、奨学金を利用できない等の経済的な理由で退学を決めた学生が12名いる。学力不振や就学意欲の低下で進路変更する学生もおり、学生のモチベーションを高く持ち続ける事が出来るような新たな取組みが必要である。教員で対策ユニットも組んでいるが、更なる対策の見直しをする予定である。

3. 会議

●教職員会議

- ・柔道整復学科会議（12回）・鍼灸学科会議（14回）・広報会議（14回）・学生課会議（5回）
- ・校務運営会議（12回）・教職員全体会議（4回）

上記の他、毎日12時35分より昼礼を実施し、報告と情報共有、教職員の教育の場としている。

また教職員全体会議を、定例では四半期に一度、必要に応じて臨時で開催し、建学の精神の確認の他、毎回理事長、校長のお話、数値の共有を通して、学校の現在地と進む方向性を確認している。またそれを踏まえた各部署の分科会等を実施し、各部の目標、行動を立案し、同時に学校全体の一体感を醸成することができたと考える。

4. 年間行事

●新入生宿泊オリエンテーション

2023年度入学者の新入生オリエンテーションを、3月28日(火)～30日(木)の2泊3日で開催した。

前年度から開催しているが、元気に挨拶するなど、効果が出ている。本校の基本理念や挨拶等基本的な学校生活について校長から訓示を行い、また各学科に分かれての勉強方法や目標の話し合い、学科ごと、出身地ごとに分かれてのグループミーティング等行った。また、キャンプファイヤーも今回から取り入れ、より学生同士、また学生と教職員の繋がりが深まり、学生の学習意欲向上と学校全体の前向きな雰囲気づくりに大いに寄与するものとなったと考える。

●スポーツ大会

5月14日（日）にR A C T A Bドームにて開催し、学生同士や学生・教職員の懇親の場となり大変盛り上がった。

●学園祭

10月1日（日）に開催し、各学科のイベントなどで、学内外の交流を深める為にも良い機会となった。

●同窓会

今年度も開催を見送ったが、2024年度には開催できるよう計画している。

5. 部活動

●柔道部

柔道部は、近畿医療専門学校の3つの理念である「社会貢献」「人材育成」「奉仕の精神」を日頃から意識し、27名の部員で活動している。

活動にあたり心がけていることは、勉学を最優先すること。そのため活動は週に2回、約1時間半に限定して練習している。今年度4名の柔道整復学科卒業生全員が国家試験も合格し、鍼灸学科にも在籍している。部活動の成果としては、全国柔道整復学校協会柔道大会では団体9位、大阪市長杯では団体準優勝、個人優勝であった。

柔道部を活かし生徒募集にも繋げるため、SNSやプロモーションビデオも作成し、認知度を高めるための活動も行っている。この活動で2名が2024年度入学予定である。

6. 生徒募集

●入学者数（年度対比）

	期	柔整午前	柔整午後	柔整夜	小計	鍼灸午前	鍼灸午後	鍼灸夜	小計	合計
H20年度	柔1		60	14	74				0	74
H21年度	柔2		60	41	101				0	101
H22年度	柔3		57	32	89				0	89
H23年度	柔4・鍼1		42	40	82	21	22		43	125
H24年度	柔5・鍼2		37	17	54	21	20		41	95
H25年度	柔6・鍼3		59	21	80	13	11		24	104
H26年度	柔7・鍼4		36	10	46	12	9		21	67
H27年度	柔8・鍼5		61	7	68	17	11	16	44	112
H28年度	柔9・鍼6		62	7	69	14	28	9	51	120
H29年度	柔10・鍼7	23	31	13	67	22	23	17	62	129
H30年度	柔11・鍼8	31	21		52	9	8		17	69
H31年度	柔12・鍼9	55	32		87	14	30		44	131
R2年度	柔13・鍼10	58	36		94	16	30		46	140
		柔整午前	柔整午後	スポーツ 科学	小 計	鍼灸午前	鍼灸午後		小 計	合 計
R3年度	柔14・鍼11	39	14	22	75	29	29		58	133
R4年度	柔15・鍼12	53	11	11	75	23	30		53	128
R5年度	柔16・鍼13	55	18	14	87	27	30		57	144
R6年度	柔17・鍼14	34	12	12	58	22	28		50	108

●オープンキャンパス

前年を上回る年間42回（前年38回）、社会人対象に平日ナイトオープンキャンパスを7回開催した（入学者3名）が、197名の来校者（前年232名）と個別相談63件（前年80件）の低い実績となり、前年比割れの結果となった。資料請求数は増えたものの来校数増にも繋がらなかったのは、コロナ禍で開催できなかった「高校の部活動ガイダンス」の開催数が回復しきれていないことが考えられる。今後は「学生募集は科学である」の考えのもと、進路指導室への高校訪問だけでなく、部活動顧問を訪問して部活動ガイダンスにつなげるとともに、学園長、副校長、教員、外部顧問帯同で訪問の質とインパクトを強化し、システム化する。教職員だけでなく学生を巻き込んだ広報活動（SNS活用）や、卒業生の開業者、整骨院グループにご協力をいただくなど、考えるあらゆるチャンネルをフル稼働させた広報活動を展開したいと考える。また、高校2年生への接触を増やし・3年次での来校・進学決定の流れをつくりたいと考える。

●高校ガイダンス・進学相談会

コロナ禍が明け、二学期以降中心に高校生向けガイダンス・出前授業を計32回実施した。対象が1、2年生中心となったものが多くなった。しかし、まだまだ開催回数が不足しており、直接高校生に矯正の魅力を伝える絶好の機会であり、訪問・来校型とも限りなく増やしていく。また、進学相談会は、高校からの招待型に参加しており、今年度は3校に参加し計4名の入学に繋がった。

7. 教育内容の充実

●柔道整復学科昼間部スポーツ科学コース

最先端のスポーツ科学に基づいた運動能力の測定・分析ができるラボ（研究施設）を設置し、スポーツ医学のノウハウをカリキュラムに取り入れたコース（定員 30 名）として、2021 年度入学生から募集をスタートさせたスポーツ科学コースの3期生は14名の入学者であった。

●職業実践専門課程認定

文部科学省による認定審査制度で「職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する」ことが目的であるため、教育課程編成委員会において外部委員の意見を参考に体系的な編成と見直しを行い、キャリア教育の充実を図るべく、関連分野の企業、関係施設や業界団体との連携を単発的なものから取り入れた。併せて学校関係者評価委員会も設置しており、職業教育に対する外部評価を行うことで、その内容を次年度にフィードバックしている。

また年間を通じて、専門分野の実務研修や指導力向上の教員研修、自己啓発研修や企業等が行う研修に参加することで教育内容を充実することが出来た。

8. 就学支援制度

●高等教育の修学支援制度の対象校

2020年度より新しく始まった制度で、高校卒業後2年以内の入学生対象ではあるが、高校での申込みが殆どで、対象校であるかどうか、かなり募集に影響する。2023年度も要件を満たし、引き続き認定を受けることが出来た。

認定により、該当学生の入学金・授業料が減免の対象となり、世帯収入に応じ区分Ⅰ～Ⅲの支援を受けることができる。

当年度は、1年21名、2年21名、3年9名の合計51名(停止者1名含む)が利用で、国と自治体から年間実績額として22,498,800円の支援を受けた。

- ① 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における【経常収支差額】が、1カ年でもプラス
- ② 直前の決算の貸借対照表における【運用資産－外部負債】がプラス
- ③ 直近3年度の収容定員充足率が、1カ年でも80%以上（段階的に2021年は70%以上、2022年からは80%）

※①～③のうち一つでも要件を満たせば良い。

※停止者とは、毎年9月の日本学生支援機構の家計基準見直しにより支援停止された者。

次年度の家計収入が下がれば支援が復活する可能性がある。

2024年度からは、多子世帯(3人以上)に対しても支援が拡大される。また2025年度からは多子世帯に対して授業料減免の満額支援が行われる予定で、常に情報を確認し、事務処理が滞ることのないよう、学生課で対応していく。

●内部進学免除制度

柔道整復師と鍼灸師の両資格を取得することで、外傷だけでなく内臓疾患に対してのアプローチにより治療の幅が広がり、より多くの患者の治療に携わることが出来、またスポーツトレーナーとしても選ばれる確率が上がることなどへの

理解が広がり、内部進学者が増加した。内部進学の特典として卒業生及び在校生、さらに入学希望者に対し入学金免除に加え授業料等を半額にすることでダブルライセンスを取得し易い環境にあることをアピールしている。

2024年度入学者では、既卒3名、新卒6名、同時入学2名、1年ずらしが14名、2年ずらしが1名の計26名の利用者がいる。今年度は中途退学や休学をすることのないよう、両学科同時に学ぶ学力があるか、成績基準を設けた。

●専門実践教育訓練給付金制度

社会人向けの専門実践教育訓練給付制度で、2022年度は鍼灸学科午前コース・午後コースが指定されており、午前コースは1年生4名、午後コースは2年生8名、3年生12名が利用していた。

9. 社会貢献の充実

●地域貢献

コロナの影響もあり社会福祉協議会等の活動は中止したが、付属治療院へは、地域の方に治療に来て頂いている。

また建物内にあるアローズジムでは、大阪初進出のスポーツ科学塾として、地域のたくさんの子供達が身体能力を上げるために通ってきている。

10. その他

●大阪府定期指導調査の実施

2023年10月16日に7年ぶりに大阪府定期指導調査が行われ、「特に文書により指導する事項はない」との結果であった。口頭で指導を受けた内容についてもすぐに改善し、今後も適正な学校運営を実施していく。